

第七回 荒川区区政改革懇談会

グループ討議会議録：山吹

【日時】

12月14日（水）14:30～17:30

【場所】

荒川区役所 庁議室

【次第】

ステップ1：はじめに

ステップ3：健康・福祉について話し合おう

ステップ2：環境について話し合おう

ステップ4：その他

ステップ1：はじめに

【前回の話し合いの内容を確認しよう】

コンサルタントより、前回の話し合いの内容、議事録の確認がなされた。また、中間発表の感想や目指す基本構想のあり方について意見を出し合い、これまでの討論内容やグループの個性をしっかりと反映させた提言をつくっていく方向で話し合っていくこととした。

ステップ2：環境について話し合おう

- ・ 委員から荒川区の環境に関する資料が提出された。委員から配布された資料によると、荒川区では喘息患者が年々増え続けており、特に小学生では、その数が全国平均をはるかに上回る水準に達している。その主たる原因として自動車の排気ガスが指摘された。その内容を確認しながら、問題点や改善策などの様々な意見を出し合った。

【大気汚染について】

- ・ 区は大気汚染の実態を明らかにして、東京都、国に対策を講じるよう働きかけていくべきである。
- ・ 緑化をもっと推進していくよう取り組むべきである。区内の緑化計画をつくってはどうか。
- ・ アイドリングストップはもちろんのこと、車の数がもはや臨界点に達している都内において、荒川区が「脱車社会（モーダルシフト）」の先進区として発信してはどうか。

【住環境について】

- ・ 都内のどの区を見てもそうだが、荒川区でも近年、マンションの建設が増加し続けている。中長期的に見て、こういった住宅政策で良いのだろうか。
- ・ 区内の住宅建設に緑化を組み込むようにさせたい。
- ・ 犬の糞、小便の始末がきちんとできていない。
- ・ 飼い主に注意しても、逆にやってかかってくる人が多く、飼う側のモラルが損なわれてしまっている。
- ・ 高齢者が淋しさからペットを飼い始めているが、飼うならばきちんとしつけ、周囲に迷惑が及ばないようしっかり管理してもらいたい。

- ・ 歩きタバコ、タバコの投げ捨てが目立つ。千代田区で行われている、歩きタバコに対する罰金条例を良い例に、荒川区でもより厳しく取り締まっていく必要があるのではないか。
- ・ 放置自転車に対して、取り締まりをもっと効果的に行っていかなければならない。監視員が巡回している時だけ違法放置自転車が減っても、監視時間外にまた増えてしまっただけでは効果が無い。

【ゴミ問題について】

- ・ リサイクル運動をもっと推進していかなければならない。
- ・ 特に、温暖化やダイオキシン発生の原因となるプラスチックに関しては、ドイツなどのリサイクル先進国を見習って、完全リサイクル化を目指すべきである。
- ・ 集団回収事業に全世帯が参加するようにしていくべきである。
- ・ ゴミを引き取り続けてゴミ屋敷のようになってしまった家から、今度は行政がお金を出してゴミを引き取るなどの悪循環を放置してはならない。

【区の条例について】

- ・ 荒川区には 300 ほどの条例があるというが、住民に認知さえされていないものも多く、いかにしてその拘束力、効果をあげるかが今後課題になってくる。
- ・ 本来、きまりというのは窮屈なものである。条例をつくっておきながら、そこで満足して放っておいては誰も守らない。守らせるよう、協力させるよう行政が努力を行っていく必要がある。
- ・ もっと条例に罰則を付与していったらどうか。千代田区のタバコ条例の例をみてもわかるが、罰則が加わることによって、取締りが強化されるだけでなく、抑止効果が多分に現れるはずである。
- ・ 条例の数を乱発せず、ひとつひとつ住民に認知させていくことが必要である。

【コミュニティについて】

- ・ コミュニティの結びつきが希薄化しており、環境問題改善に取り組んでいく上で問題がある。
- ・ 町会などは、体質上、地元の集まりという意識が強く、外から来た人間にとって参加しづらい。
- ・ 町会が体裁ばかりが際立って、本来発揮できる働きを失っているのではないか。
- ・ 町会、マンションの管理組合など、各コミュニティ間で連携ができるように、行政が調整を行っていかねばならないのではないか。
- ・ 既成のコミュニティのみならず、区民が自ら問題改善に向けて、新たに組織を作り出していく必要がある。そのためには行政がファシリテーターとして、区民の意志を実現させる機能を果たさなければならぬ。

ステップ 3 : 健康・福祉について話し合おう

2 番目のテーマ別討論として、「健康・福祉」について意見を出し合った。特に今回は障害者福祉について重点的に話し合い、理解を深め合った。

【障害者福祉について】

- ・ 障害者にとって、山奥の施設などではなく、一般社会の中で生活することは心地良いものである。荒川区は地理上あまり起伏のない地域であり、障害者にとって住みやすい地域のひとつである。
- ・ 家や施設に引きこもって生活している人たちを、いかにして外へ解放していくかが課題となっている。障害者が精神的にも暮らしやすい環境をつくるため、まず住民の障害者に対する偏見を取り除き、理解を深めていく必要がある。
- ・ 障害者も、今までのような保護される、介護されるといった扱いばかりでなく、自分の能力を発揮

できる環境を求めている。

- ・ 雇用機会をもっと増やし、自ら進んでいける道筋をつくっていかなければならない。
- ・ 最近、区の小学校で車椅子体験などを通して障害に対する教育が進められ、理解が深まりつつある。自ら障害者とのふれあいを求める子供たちも多く、行政はこういった意志を無駄にせず、もっとお互いの交流の場を提供して欲しい。
- ・ 障害者が引きこもってしまう要因のひとつとして、親の無理解があげられる。自分の子を守りすぎて、家や施設にかくまってしまっている。親に対して教育を行い、親が相談を受けられる場所が必要である。
- ・ 知的障害者の多くは、当事者ではなく、家族が当人の生活の決定裁量を持ってしまっているのが現実である。しかし、その親や家族が突然いなくなってしまうようなケースに直面したら、生活が立ちいかなくなってしまう。そうならないためにも、できるだけ外に出る訓練を行っていかなければならないのではないかと。
- ・ これからは、当事者の意識の变革も求められてくる。単に、身の回りにいるヘルパー、ボランティア、福祉関連の人脈のつながりだけではなく、様々な人間との関わりを持っていく必要がある。

【高齢者福祉について】

- ・ 医療費の負担が多い高齢者に対して、価格や質の良い病院を紹介するなど、情報面でサポートをしてくれる NPO がある。区も病院の現状をできる限り把握し、公式の情報提供者としての役割を果たして欲しい。
- ・ 最近の小学生をめぐるモラルを欠いた事件が多発している現状を受け、高齢者が小学生の登下校のパトロールを行っている。こういった高齢者の活動、役割を増やすよう、行政に導いて欲しい。

ステップ 4 : その他

【次回について】

コンサルタントより、今回の話し合いのまとめ、次回以降の議論の進め方の確認が行われた。次回は、これまでの議論の内容も含め、「コミュニティ」、「区政」などのテーマについて話し合っていくこととした。

次回日程は 1/11(水) 13:30 より。

以上